

議会だより

せら



■今号の主な記事

- 農村公園化への一步 過疎計画 ……2
- 災害復旧予算可決 ……3
- H21年度決算 付帯意見を付け認定 ……4~5
- 委員会は今 ……6~7
- 陳情請願 人事 ……8
- ズバリ 町政の課題 13人の議員が質問 ……9~15
- 元気な人 自治体病院の危機から脱却 ……16

若さいっぱい!

No.23 平成22年11月15日発行

メールアドレス gikai@town.sera.hiroshima.jp

過疎地域 自立促進計画を決定

農村公園化への一歩

H22年第3回定例会を9月6日から24日まで開いた。過疎地域自立促進計画策定のほか、H21年度決算関係10件（詳細4・5頁）、H22年度補正予算関係10件など計31件を審議した。

「地域の個性や特性を生かし、住民と行政が機能分担し、協働で品格ある全町農村公園化計画」を基本方針とする過疎地域自立促進計画（過疎計）を決定した。

町づくりの課題は、①大幅な人口減少に歯止めをかける、真に有

効な少子高齢化対策。
②これに不可欠な交通網や上下水道、更にはごみ処理対応など生活基盤と環境の整備。
③これらを支える産業の活性化と振興。
④最後に計画の主体を担う財政の健全化の4点がある。
計画期間はH22年度



工事が進む安田徳市線

条例の改正と廃止

からH27年度までとしている。住民と行政が一体となった「自治」の力で、豊かな自然や歴史を活かした元気な産業のもとで、大人から子どもまで全ての町民が安心して住みつけられる快適で安全な町をめざす。

また過疎計に関係する辺地に係る総合整備計画も併せて決定した。

子ども手当や高校の授業料実質無償化、たばこ税引き上げなどで地方税法が改正された。町税条例も準じて改正することとした。

これによって16才までの年少扶養親族控除は廃止、19才までの特定扶養控除は33万円に減額となる。

また「おおた保育所」は、地区内に私立幼稚園や認定こども園があることから、保育所再



基礎工事中の甲山小学校屋内運動場

編整備計画にそって廃止する。

「地域の保全経費の財源に充てる」としたふるさと・水と土の保

工事契約の変更・その他

H23年4月の小学校統合へ向けて世羅・甲山・せらひがしの各小学校では、施設整備の工事がすすめられている。せらひがし小学校は、特別支援学級とその関連設備、安全施設の追加工事が必要となった。工事費約1千万

円を増額する契約変更を決めた。
川尻地区ですべている圍場整備では、現況にあわせて、字の区域を変更することとした。

セラアグリパークの業務報告では、経営の一層の安定を求めた。

災害復旧予算を可決

7月14日の豪雨災害では、町は一般会計補正予算を二度にわたって専決処分し、緊急対応している。町が把握した災害の内容について、7月30日の議会全員協議会では、公共土木と農林災害合わせて222件・約5億7千万円と報告を受けた。（土石流は県対応のため除く）この復旧費約3億4千万円（国県の補助金など受けられる）を含む補正予算第5号と被災者への支援金、約600万円などの補正予算第6号を可決した。

災害復旧に 本格着手

今回の豪雨災害は、調査が進むにつれて被害の大きさが明らかにになり、激甚災害法が適用されることとなった。これにより財政支援は受けやすくなった。しかし、全ての被災地が対象となるわけではない。一ヶ所当たりの災害程度に基準が設けられている。支援を受ける

災害として5億6千600万円余りを充てる。一方で該当しない町

道は出来る限り道路維持費で対応するとして5千400万円余り増額することとした。なお対応できないものは協働ですとし、地域づくり活性化補助金を100万円増額した。農林関連では、農林振興対策補助金5百30万円を増額して対応する。これとは別に裏



片側通行のフルーツロード

山崩壊復旧に7千100万円を充てるとしている。

被災した家屋への支援は補助金や貸付金500万円余りを予算化した。

これらの予算は10月以降、順次復旧工事として着手される。

その他の 主な予算

秋の深まりとともに新型インフルエンザの流行が心配される。年齢や所得の状況で差異はあるが、予防接種費用の助成1千700万円弱を予算化した。小学校の整備予算4千800万円を増額し来春の統合に備える。

議長 奥田 正和 副議長 福田 豪 を選出

8月9日に開いた全員協議会で、小川信晃議長から「健康上の理由」で議長辞職の申出があった。これを受け8月26日、第3回臨時会を開き、選挙の結果、議長に奥田正和、副議長に福田 豪を選出した。

これに伴い産業建設常任委員会委員長に仙光保喜、副委員長に松本秀治、総務文教常任委員会副委員長に岡田武士、広報公聴調査特別委員会委員に仙光保喜と、議会構成を一部変更した。

無駄な努力はない 行動と興動を積極的に



議長 奥田 正和

活発な議論はもとより、個の意見にとどまらず、暮らしが良くなる提案をまとめることが必要。期待に応えられる、前向きな議会でありたい。



副議長 福田 豪

対話で紡ぐ信頼の絆 そして人と自然が輝く町へ

議長を補佐する黒子であること。一方で議員一人ひとりの発言の機会を保ち、ブレのない政策判断を。

平成21年度

決算

付帯意見を付け認定 委員会報告

あえて少数意見を付記

さらに、副町長は県
との人事交流で服務意
識は向上したと認識を
示した。

監査意見書(概要)

監査委員 山口 敦允
監査委員 仲行 洋

一般会計

- 1 財政運営の努力成果は見られる。なお、一層の弾力性のある財政に努められたい。
- 2 不納欠損処分は件数、金額とも抑制されたい。
- 3 未収入額が増加しており、収納対策の確立を求める。

企業会計

- 1 上水道は有収水量の減少が大きい。料金回収率の向上を求める。
- 2 公共下水道は事業経費の節減と、早期接続を求める。
- 3 簡易水道は、未普及地域の計画、老朽施設の計画的対応を求める。

9月8日の本会議でH21年度一般会計ほか9会計の審査は、決算特別委員会（議長、議会選出監査委員を除く全議員）に付託された。16日・17日・21日の3日間にわたって審査し、すべて「認定すべきもの」と決した。一方で、課題と改善など4項目の付帯意見をつけた。

また、本会議への報告には、少数意見をあえて報告した。

審査の概要

決算審査は決算概要、監査意見書、財政健全化意見書、経営健全化意見書から始めた。

3月定例会で物品購入等調査特別委員会の設置、行政改革プラン最終年の決算などの経過から、概要と意見書

への質疑が集中した。

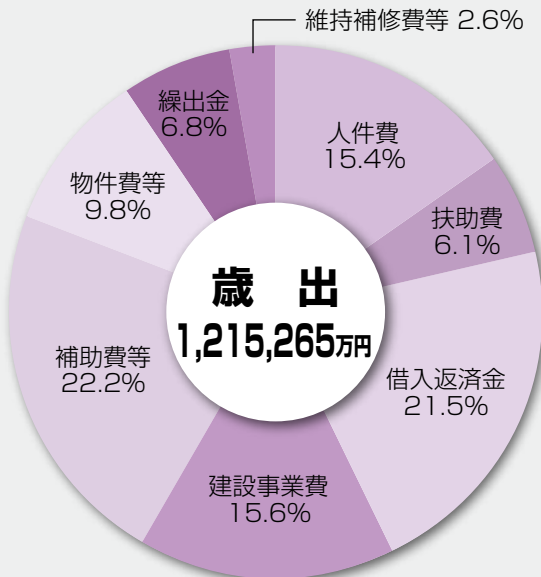
町長は財政基盤の確立の見通しがつき、第2ステージへと歩むとした。

また、監査委員は、税金が有効に活用されるのが基本で、法令や例規は守られることが当然との見解を示した。

単位：万円

歳出決算額

人件費	187,316
扶助費	74,117
借入返済金	261,001
建設事業費	189,770
補助費等	270,197
物件費等	119,190
繰出金	82,620
維持補修費等	31,054
合計	1,215,265



平成21年度決算審査付帯意見

1. 歳入において、収入未済額が、昨年より増加している。納税や負担金など公平公正を図るため更なる収納努力に努められたい。
2. 物品購入等に代表されるように、事務手続き不備を監査委員から指摘されている。公平性を確立するために関係法令など遵守し、指摘事項への早急な対応を求める。
3. 公営企業の事業執行に当たっては、常に企業の経済性を発揮するとともに、公共の福祉を増進するよう努められたい。
4. 決算審査の過程において指摘した事項については、十分留意し今後の行政執行に反映されたい。

平成21年度決算認定審査結果

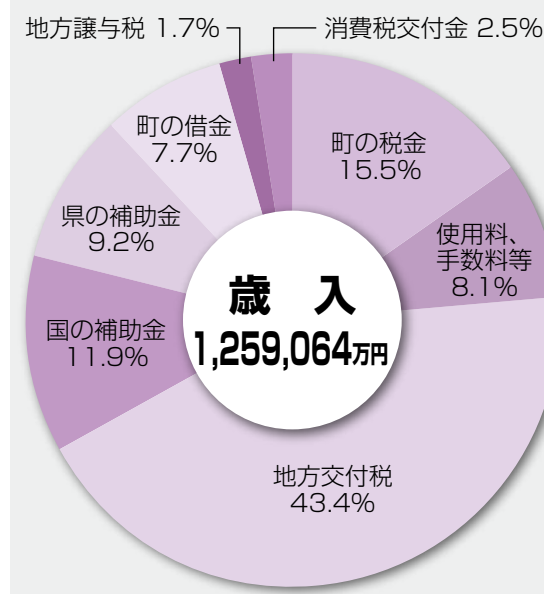
議案番号	提出議案	西田	岡田	矢山	安佐	徳光	豊田	福田義	能登	仲行	仙光	小川	松本	永田	中村	福田豪	採決
議案第67号	一般会計	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第68号	国民健康保険事業特別会計	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第69号	老人保健事業特別会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第70号	後期高齢者医療制度特別会計	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第71号	介護保険事業特別会計	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第72号	介護サービス事業特別会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第73号	農業集落排水事業特別会計	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第74号	上水道事業会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第75号	簡易水道事業会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
議案第76号	公共下水道事業会計	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定

審査報告

収入未済額が年々増加の傾向にある。それは自主財源であり公平公正を維持するためにも一層の努力を求める。

町民を相手とした裁判は、十分説明されたとは思わない。また、メロディーロードなど、

斬新な事業は十分な調査と研究、さらには地元説明が求められる。主要政策については目標を見据えた予算付けはもとより、関係諸機関、団体との連携について、今後を考慮した決算概要であることが必要など、少数ではあるが貴重な意見があった。



歳入決算額	
町の税金	195,637
使用料、手数料等	102,034
地方交付税	545,963
国の補助金	149,928
県の補助金	116,354
町の借金	96,379
地方譲与税	21,588
消費税交付金	31,181
合計	1,259,064

報告します 委員会は今

総務文教常任委員会



世羅小学校屋内運動場

●現地調査

●小学校の建設は

施設整備をしている世羅・甲山・せらひがし小学校を調査。世羅小学校・甲山小学校の屋内運動場新築工事は双方とも基礎工事中で、せらひがし小学校の増築工事も、基礎工事中であった。どの工事でもH23年上旬には完

成する。

●事務調査

●小学校統合準備は

学校統合準備委員会全体会において、7月に校章・校歌（歌詞）の決定がされた。そして、「適正規模による学習集団づくり」について世羅小学校に統合する4小学校の代表に

説明がされた。委員会では、通学対策で、主に冬季の安全運行が議論された。

高年齢者福祉は

高齢者数は8月末6千386人で内810人がひとり暮らしである。介護認定者1千222人、介護サービス利用者305人、在宅支援制度には、緊急通報体制整備事業・訪問給食サービス・高齢者地域支援事業・小地域福祉ネットワーク事業・災害時要援護者避難支援制度などがある。

防災対策は

7月14日の豪雨災害では尊い命が亡くなった。町では防災計画をH19年度に策定しておりこの計画を基本方針として運用している。今回の災害対応についてもこの計画を基本として被害が最小限に抑えられるよう対応を

行ってきた。今回の災害を検証する中で必要な修正を行っていく。

行政改革プランは

H17年度～21年度までの取り組みと総括。効果として18億円の財源確保の効果があつた。内、13億円が人件費で全体の7割を占めている。財政収支では約23億

の赤字になる見込みが約11億円の黒字となり差し引きで約33億円の改善となった。

自主財源の収納状況は

H21年度の状況は町税全体の収納率96・5%・町民税95・7%・固定資産税96・7%・軽自動車税96・1%・町たばこ税・入湯税は100%であった。

物品購入等調査特別委員会

コピー機、印刷機の契約状況、競争原理が活かされているかなどの調査を4回行ってきた。いくつかの問題があつたが、4つの点を指摘し、今後の改善を求め、まとめとして、今回をもって終了することと一致した。

1 条例・規則・要綱

に基づく執行がなされず、原因をつかみ責任の所在を、はっきりすべきである。

2 長期にわたり、同

一業者継続契約の更新が続く書類の不備がチェックされていないと思われる点もある。

3 随意契約の見積も

りが、1社だけのものもあるが競争原理を働かせるべきである。

4 指名業者の公平な

参加が出来る工夫をするべきである。

産業建設常任委員会

●現地調査

道路状況は

県代行林道、下津・小世良線の進捗状況

久井町下津と小世良を結ぶ林道であるが世羅町分はH4年より着手している。

計画延長は6千736mで、完成予定はH27年度である。

町道危険箇所として国兼線と平田線の調査

国兼線は津口と大和町福田に通ずる線でこれまで用地買収の一部が残っていたがすべて整いH23年に工事に着手する。平田線は北川鉄工甲山工場の南側の道路で赤屋川橋付近がクランク状をしており自転車や歩行者が通るにはせまい道路である。但し、隣接する国道432号の改良工事が進んでおりこの工事が完成すると通行量が少な

くなることが予測される。

野積み堆肥の状況は

池田工場を視察し説明を受けた。

現在も臭いや汚水で問題がつづいている。5年を経過し袋も劣化し中身の出たものもあった。小世良の野積み堆肥の撤去は、地権者との同意書によりH23年7月までには撤去を終えるようにする。

●事務調査

観光事業の取り組みは

観光協会の会員数は197人。協会では、岡山・香川・徳島・愛媛など観光PRキャラクターで40社を回りより多くの観光客が来町されるよう活動された。また、町内をスムーズに観光できるよう案内標識看板の修繕や新規

作製も行っている。今後、尾道松江線の開通を見据え島根県の行政や観光協会と連携できるものはないか積極的に取り組んでいる。

生活環境を守る条例は

県の対応状況を見る必要がある。今に至った。野積み堆肥と同じケースが出ないよう、12月議会で条例改正の

予定である。犬の糞の苦情も多くあり糞害防止についてもうたう予定。

農業の現状と方向は

中山間地域直接支払い制度の3期は転作の要件がなくなった。生産調整達成の農家や法人がどのような米の生産状況にあるか調査中である。



池田工場で現地説明

公共下水道事業調査特別委員会

公共枡の接続状況は

現在、公共枡設置2

58件に対し115件44%の接続状況である。今年度末で152件の接続予定。

今後の事業の方向は

今後の工事は、手綱川まで幹線を延ばし、費用対効果をあげるた

め、今後2～3年は幹線工事に力を入れたい。

しかし、甲山地区は当初から話があり、下水道に期待しているが、今になって後回しにされたのでは困るとの意見があり、今後、全体の事業の進行状況をみて進めたいと説明。

尾道松江線調査特別委員会

甲山インター(仮称)から南の工事はほぼ完了し供用開始を待つまでとなっている。時期はH22年度中としか報告されていない。以北は用地買収が残っており最大の課題となっている。

委員の中からは過疎地域自立促進計画・全町農村公園化構想も計画され進んでいく中、

開通式も近く尾道松江線を活用した町づくりが今後の課題であり、構想・計画が打ち出された中で、総務・経済の両常任委員会の中で論議・調査することが適切であり、特別委員会では余りに問題が大きすぎると言う意見がでた。よって、本特別委員会は今回をもって終了することと一致した。

皆さんからの
陳情と請願
このように決めました

■採択したもの

◎超高齢化社会における「成長」を支えるシルバー人材センター活動への支援の要請

社団法人

世羅町シルバー人材センター

理事長

溝上 義寿

◎教育予算の拡充を求める意見書提出要請

広島県教職員組合世羅支区

支区長

神田 明
(全員賛成)

■継続審査

◎特措法に基づく基金の早期創設と口蹄疫被害の全面補償を求める請願

三次市粟屋町3222番地

農民運動広島県連合会 委員長 杉本 隆之

◎米の大暴落に歯止めをかける請願

三次市粟屋町3222番地

農民運動広島県連合会 委員長 杉本 隆之

◎免税軽油の継続を求める請願

三次市粟屋町3222番地

農民運動広島県連合会 委員長 杉本 隆之

◎EPA・FTA推進路線の見直しを求める請願

三次市粟屋町3222番地

農民運動広島県連合会 委員長 杉本 隆之

■議員提案

◎米価下落歯止めと万全な米備蓄体制の実現を求める意見書

議会議員 永田 英則 他

平成22年 第3回世羅町議会定例会提出議案表

議案番号	提出議案	西田	岡田	矢山	安佐	徳光	豊田	福田	能登	仲行	仙光	小川	松本	永田	中村	福田豪	採決
議案第62号	過疎地域自立促進計画策定	○	○	×	×	○	棄権	○	欠席	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第65号	保育所設置及び管理に関する条例を改正	○	○	×	×	○	×	○	欠席	○	○	○	○	○	○	○	
議案第77号	一般会計補正予算(第6号)	○	○	○	×	○	×	○	欠席	○	○	○	○	○	○	○	

議案番号	提出議案	採決
議案第61号	字の区域の変更	可決
議案第63号	辺地に係る総合整備計画策定	
議案第64号	税条例の一部を改正	
議案第66号	ふるさと・水と土の保全基金条例を廃止	
議案第78号	国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	
議案第79号	老人保健事業特別会計補正予算(第2号)	
議案第80号	後期高齢者医療制度特別会計補正予算(第1号)	
議案第81号	介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	
議案第82号	介護サービス事業特別会計補正予算(第1号)	
議案第83号	農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	
議案第84号	上水道事業会計補正予算(第1号)	
議案第85号	簡易水道事業会計補正予算(第1号)	
議案第86号	公共下水道事業会計補正予算(第1号)	
同意第3号	教育委員会委員の任命同意	同意
議案第87号	工事請負契約の変更	可決
議案第88号	一般会計補正予算(第7号)	

人事

世羅町 固定資産評価審査委員

廣山 幸春 (本郷)

(任期H22年10月1日～H25年9月30日)

教育委員会 委員

廣山 一子 (徳市)

(任期H22年11月18日～H26年11月17日)

13人の議員が質問！

一般
質問

ズバリ 町政の課題



ふるさと夢基金審査会



仙光保喜議員

Q
ふるさと夢基金事業の考えは

A
地域づくりの機運を期待

●**仙光** 今年度地域づくり支援を目的に「ふるさと夢基金」を設立。財源は企業からの寄付、(財)民間都市開

発機構からの資金で、応募を募る会で審査決定するという新しい手法で実施した。
応募は16団体あり、金額に対して約2・5倍の状況である。
審査の結果、100%認められたのは2団体で、1団体はわずか6%で他の1団体は0

回答である。その他の団体はいろいろな割合でカットされ、予算額960万円の範囲内に治め込まれている。

審査の内容も公表しない。これでは、所期の目的は達成できないし、申請段階でも企画情報課職員と協議の上で承認されるものと予測していた。

金額合わせの審査会でなく、場合によっては来年度に回すなど、地域づくりの気運に歯止めをかけない方法での実施を望む。

■**町長** 夢基金は、町費と(財)民間都市開発機構の拠出金、及び町民からの寄付金を原資として、総額3千50万円の内960万円を且22年度予算化し、事業の募集をした。

審査会の設置は(財)民間都市開発機構からの条件で義務付けられている。審査会委員の費用弁償は、基金とは別予算としている。



事業で改修される津口創作館

事業申請の問い合わせには、要綱・要領に基づき助成対象外となる場合があることを知らせてある。

事業計画の内容、資金計画、事業効果など審査基準に基づき審査をした。結果、予算範囲内の助成となった。次年度以降も多くの事業申請がされ、地域づくりの機運が高まることを期待している。
今後も検証を実施し町民や団体の要望に可能な限り応えていく。



教育の充実を！

●永田 定例監査、例
月出納検査の意見に對
しての対応、また整理
はどのようにされてい
るか。

■町長 原則、定例監
査で意見のあったもの
は担当課で対応整理
し、例月検査で財政・
会計については財政課



永田英則議員

Q 定例監査、例月出納検査結果は
A 指摘事項は各課で共有

Q 特別支援教育体
制の反省点と今
後の方向は

A 特別支援教育部
会が中心に対応

●永田 特別支援学級
の保護者に説明の機会
を。統合時の支援学級

会計課で対応する。そ
の他については担当課
に対応をもとめ課長会
議で検査意見を報告
し、指摘された事項に
ついては各課で共有す
るよう努めている。

●町長 臨時職員は66
人採用している。採用
方法については、ハロ
ーワークを活用して応
募者を面接し、職種に
応じて適任と思われる
方を採用している。

派遣職員は人材派遣
会社に委託し派遣をし
ている。

Q 臨時職員の
採用は

A ハローワーク
を活用

●永田 現在、臨時職
員は何人か。臨時職員
の採用方法、また、派
遣社員についても。

の予定人数、在籍児童
介助者数、保護者と意
見交換会。世羅小学校
へエレベーター設置を。

■教育長 入学予定人
数37人、介助員数は小
中合せて現在16人、意
見交換は校長を中心に
特別支援教育部会が中
心となり説明し対応し
ていく。エレベーター
の設置は考えていない。

●松本 私たちの生活
基盤を作っていただ
いた高齢者が、安心し
て暮らせる状況を作
っていくのが私たちの
使命と考える。高齢
化が進み独居世帯・二
人暮らし世帯が増加
する現状を踏まえ、
町としてより一層の
取り組みが必要であ
り「安心して暮



松本秀治議員

Q 高齢者をどうこれから守
ていくのか

A 情報の共有により支援体制
を図る



敬老会にて

らせる町」として人口
増加につながることも
考えるが、執行者とし
ての考えを伺う。

①これまで独居世帯の
安否確認の確立を訴え
てきたがその後は。

②独居世帯の調査（デ
ータ収集）をしている
と思うが、どの程度
行っているのか。

③防災面は今後どう取
り組むのか。

■町長 ①現在町内に
は65歳以上で810人
余りの方が一人暮らし
をされている。確認に

関しては、民生委員の
定期訪問、安心電話サ
ービス・訪問給食など
で、安心電話サービス
は緊急通報装置のボタ
ンが押せないなど若干
の問題があり、安否セ
ンサーなどの取り付け
整備をしている先進地
に視察研修し、改善に
向け取り組んでいる。

今後、関係機関と連携
し充実した緊急通報シ
ステムの構築に努める。

②民生委員の方に定期
的に訪問して頂き、報
告を頂いている。小地
域福祉ネットワーク表
を作成し担当民生委員
・協力員・町が保持し
情報の共有により支援
体制を図っている。

③現在「災害時、要援
護者避難支援プラン」
を作成し支援を希望さ
れる方1千500人余
りの同意者台帳を作
成、今後は自主防災組
織・住民自治組織など、
支援団体と協定書を交
わし個別計画の作成に
向けて取り組んでいく。

Q

人事評価制度の成果は

人事・給与に反映

A

●仲行 職員の人材育成を図ることを目的としている人事評価制度であるが、結果はどのように反映されているか。

■町長 本町は人事評価制度を活用して職員の人材育成と効果的な

人材活用を行うこと

で、住民の満足度の向上につなげたいと考えている。H19年度から試行を行い、現在管理職において実施している。得られた評価結果は人事に反映させている。今後はH21年度の結果を基に給与にも反映する。一般職員には、本年度説明を行い、来年度より係長、一般職員を対象に導入に向けて取り組む。



仲行 洋議員



医療の充実を

Q

世羅・三原北部医療の取り組みは

医療体制整備で安心安全を提供

A

●仲行 世羅町及び三原市北部において、住民が安心して医療が受けられる体制を確保することを目的に再編が行われている。現在までの取り組みは。

■町長 4月1日に世羅中央病院企業団と三原くい市民病院の経営統合がおこなわれた。H23年に、一般病床135床、療養病床20床を有する病院となる。また、くい病院は無床の診療所として、初期診療を担うこととなる。

施設整備などは、これから行われるが、国・県の交付金を有効活用し、医療体制の整備はもとより、保健福祉の分野においても、町民市民の安心安全を提供していく。

Q

老後の安心を誇れる町に

施設増床で待機者の解消を

A

●徳光 今日の現状は核家族化、共働き世帯、独居、認知症など増加の傾向にあり、施設入所の待機者は150人前後で、早急な施設整備を。

■町長 ①第4期介護保険事業計画に基づき、介護付き有料老人ホームを建設中。鉄骨3階建、一般居室20室、介護居室30室、全室個室、デイサービス併設が、今年度中に開設の予定。(民間施設)

②認知症対応のグループホーム施設は、2ユニット定員18人、H23年度中に整備したい。

③第5期介護保険事業



徳光義昭議員

計画の前倒しで、町内



ボランティアによる復旧作業

Q

豪雨災害の教を生かす

あらゆる災害を想定した訓練を計画的に

A

●徳光 豪雨により尊い命が失われ、お悔やみと被災された方々にお見舞い申し上げます。

①危機管理の専門職員体制は。

②災害対応の救護主体

に、地域の状況に精通し経験と実績のある建設業者に、現地災害本部での指揮を。

■町長 ①消防・危機管理担当で職員2人を配置している。大災害となれば県機関と協議し、専門職員・技能に優れた人の派遣も想定される。

②指揮命令は今後検討が必要。

Q

景気・雇用対策は

やり方方法に知恵を出す

A



福田義人議員

●福田義 町の存続は、雇用の確保が重要。そこで問う。

- ①企業誘致・雇用確保は。
- ②町内業者の支援策の具体案は。
- ③新規参入企業に対する水道要望は。

■町長 引続き企業誘



危険な家屋

園化構想は、希望のある構想だ。町民の期待も大きい。尾道松江線も完成するが、単なる通過点にならないよ

致・雇用対策に努める。「とくとく商品券」に支援を行い消費拡大に努める。

■副町長 新規水道には、やり方の知恵を出す必要がある。

Q 町の発展に積極的な研修が必要だ
A 人材育成に研修は必要

●福田義 全町農村公園

う議員も職員も研修が必要である。

■町長 本町の特性を活かし存在感を放つ町を持続していくためには、人的資源の能力を最大限に育成・活用し、自ら議員の研修の重要性を指摘されていることに敬意を表す。

Q 安全安心な街づくり
A 課題解決に努力する

●福田義 町の景観と安全確保は重要な課題だ。高齢化した今地元

に住まわれない、空き住宅・店舗の老朽化が進み、崩壊の恐怖にさらされている。近くの居住者はどう対応すればよいか。

■町長 空き家などの崩壊の危険性は、問題提起されている。課題解決に向け、関係機関と研究しながら、対策を検討する。



西田美喜男議員

●西田 日本の農作業事故で毎年400人程の命が失われている。農水省が71年に調査開始して以降、08年ま

Q 農作業事故防止の強化を
A 農作業の安全意識高める



安全な農作業

での38年間で1万4千664人にも上っている。H20年の死亡者は374人、65歳以上の高齢者の事故は296人となり、事故全体に占める割合は76%と高くなっている。

死亡事故のほか、後遺症が残った重傷事故は、死亡事故の何倍に

ものぼると想定されており、他産業が確実に死亡労災を減らしてきた中で、農業はほとんど変わっていない。

さらに、農業は特に高齢化が進展している分野であり、自治体や関連機関・団体に、農業従事者の命を守る取り組みが求められている。町長の見解を伺う。

■町長 本町は、H21年に36件発生した内、32件、89%が61歳以上となっている。

今後、農作業事故防止に向けた対策の強化は重要な課題と認識し、県、JAと連携し、農作業安全への意識を高める「啓発チラシ」を広報に掲載するほか、ケーブルTVやいろいろな機会をとおして注意を促していく。

また、労災保険相談会の開催など、JAを窓口として労災保険の加入促進にも取り組んでいく。



土石流災害の現場

る所在
不明者
と内訳
は。
②適切
な対応
を。
③調査
は終了
か、今
後の対
応は。



豊田 勲議員

■町長 「耐震改修促
補助を。
導入を。耐震診断にも
補助を。
■町長 自宅を耐震工
事やバリアフリー・ト
イレ水洗化・台所改修
などをする時、町内業
者に頼めば工事費の
10%を補助する制度の
耐震補助制度をみて検
討したい。

Q 住宅リフォームと耐震に補助を A 国の制度を見て検討する

進計画」を策定した。
6千240戸の内、
1千289戸に課題と
判断。H27年までに町
の建物85%、住宅95%
を耐震化したい。国の
耐震補助制度をみて検
討したい。

Q 所在不明者の除 籍や生存確認は 100歳以上 A 80人を除籍

●豊田 ①戸籍にあ
る所在
不明者
と内訳
は。
②適切
な対応
を。
③調査
は終了
か、今
後の対
応は。

■町長 ①100歳以
上80人。旧甲山22人、
旧世羅49人、旧世羅西
9人、男45人女35人。
②介護実態や医療受診
で生存確認。
③今後、法務局と連携・
協議し許可を得て高齢
者戸籍の削除をしたい。

Q 土石流災害が ら学ぶもの A 災害対応の 連携に反省

●豊田 ①災害の概要
②災害の特徴は。③対
応の反省は。④ハザ
ードマップの改善は。⑤
防災計画書の見直しを。

■町長 ①道路129。
河川72。農地・農業用
施設132。裏山崩壊
など86カ所。②累加雨
量260mmが原因。③
災害対策関係者の連携
に課題。④現状に即し
ているが必要に感じ見
直す。⑤運用に課題が
あり、必要に応じ見直
す。

Q 2009年度の医療費が 過去最高 A 県平均を1万4千円下回る水準

●岡田 本町の09
年度の医療費はい
くらか。前期後期
の高齢者の利用割
合は。一般被保険
者と退職被保険者
の割合は。ジェネ
リック薬品の利用
割合は。

■町長 H21年度
の総医療費は51億
9千万円。65歳か
ら74歳の前期高齢
者は9億1千万円。75
歳からの後期高齢者は
35億円である。一般は
15億円。退職者は1
億9千万円となってい
る。

広島県平均を1万4
千円程度下回る状況で
る。



岡田武士議員



心臓カテーテル検査

推移している。
ジェネリック医薬品
の利用状況割合は17・
8%の状況。

Q 町内にお年寄り の行方不明者が 実在するか A 男性35人、 女性45人、実在

●岡田 一〇〇歳以上
の町民の行方不明者が
おられるか。該当者が

あれば今後の対策は。
■町長 一〇〇歳以上
で住民基本台帳に記載
している方の所在は確
認しているが、戸籍上
での不明な方は、男性
45人、女性35人の計80
人。法務局と協議を重
ね許可を得て、合法除
籍で対応したい。

Q とくとも商品券 をナゼ大型店に A 本年度2回目 を実施する

●岡田 「とくとも商
品券」は、地元の弱小
商店のために考えられ
たと思うが。

■町長 町としては、
店舗の大小を問わず、
町民の消費活動を促進
する点で、地域経済の
活性化に資するものと
認識している。
利用状況は食品が最
も多く、町民から好評
を得ている。
H21年度は商工会調
べで、現在80万円が未
利用となっている。

Q 廃棄物処理にどう取り組む

A 禍根を残さない選択を



中村幸雄議員

●中村 可燃ごみは甲世衛生組合において固形燃料化し、福山リサイクル発電所に搬入処理されている。

H30年度が発電事業の最終年度である。し尿及び浄化槽汚泥は増

加傾向にあるが、今後の取り組みは。

■町長 甲世衛生組合の施設も老朽化が懸念される。リサイクル発電事業を延長した場合の必要経費や処理単価などを出すための基礎データを今年度末までに調査していくことが、参画市町連絡協議会において協議され始めた。来年度中には方向の素案が示されるものと



エコワイズセンター

考えており、将来に禍根を残さない正確な選択が必要と考えている。

し尿、浄化槽汚泥は昨年度、施設の大規模改修を実施し、三原市久井町分は、H25年度から軽減予定である。

Q 統合後の教育方針を聞く
A 統合後の基本方針で

●中村 教育の基本方針は。

■教育長 ①望ましい学習集団（1学級あたり21人から30人）の中で社会性を培い、コミュニケーション能力を育成する。
②児童が関わり合い切磋琢磨することによって学習を深め技（スキル）を高める。
③小中連携教育を一層充実させ、義務教育9年間の学習をつなぎ、学習を高めるとともにふるさと教育を充実する。



地元住民による復旧作業

Q 7月14日集中豪雨災害の対応
A 災害対策は、国県に要望し災害復旧に全力で取り組む



安佐長秀議員

●安佐 災害時の対策本部設置は全町民が理解できるか、対応は適切か。

■町長 町内各世帯から被害連絡が殺到した。対策本部は、総合的な判断で設置し、国県に対し災害復旧など取組みを強化するよう、議会と連名で要望

Q 行政改革プランの進捗は
A 行政改革プランは年次計画的に

し、激甚災害の指定を受けた。これにより、迅速な災害復旧に全力で取り組む。

●安佐 行政改革執行5年間で一定の成果があり、昨年は前年度より5億円の成果を得たというが、更なる仕分けが重要と思うが。

■町長 行政改革の推

Q 工事請負契約は国県と同様の内容か
A 当町の規約規定に基づき公平公正に選定している

進により、町民福祉の向上や持続が可能になり、改革の先が見えた。また、職員数の削減や、定員適正化計画に基づき対応する。第2次改革プランで全町農業公園化構想に昇華させる。

●安佐 国県の基準に公正な格付けがされ執行しているなら、建設工事等指名業者選定委員会の協議内容を公表し、理解を得る考えは。

■町長 町の制度、予算財源を使い、範囲内で最大限の経済対応と制度的努力しか出来ない。

予定価格は町長しか知り得ず、10%をきるなど事実はないことを明確に申し上げる。

Q

住民税の見通しと対策

総合的な生活支援に力点

A

●福田豪 人口減少社

会が現実となつてきた。経済も一時の高度成長は望みにくい。これは町の財源の大部分を占める地方交付税の今後に影響する。

一方過疎に歯止めがかからない町では住民税をどう見通し、対策するかが、財政運営のポイントと考える。

■町長 個人住民税は人口だけでなく景気の動向によっても変動する。

給与、年金、農業などの合算所得は減少傾向で、増加に転じる気配は見られない。こうしたなか、新税の導入



福田 豪議員

も考えられない。

対策としては、定住・子育て支援、企業立地など、出来る限りの対策を講じ、町の誇るべき特徴を生かし、総合的な生活支援に施策を向けていかなければならない。

Q

議場内議論に終始してよいのか

A

議会は町の未来を方向付ける場

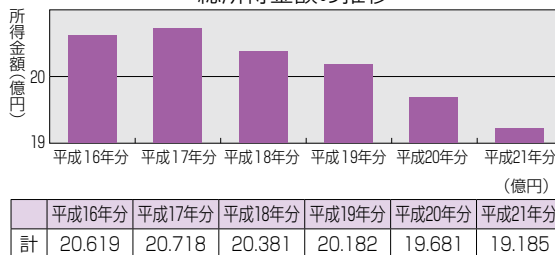
●福田豪

議会での質問、議案、委員会調査

での意見は、執行できないもの、相容れないものもある。しかし、研究調査には値する。

こうした積み重ねが将来の力となる。町民は、町長と議会の議論のやり取りを見て、町のあり方や行末を感じ取っている。

総所得金額の推移



■町長 町の将来を考えれば、個々あるいは短期的な情勢や状況に左右されず将来あるべき先を読み、歴史に耐えうる町づくりが肝要。

■町長 議会は、町の政治をどういう方向に持っていかとという議論の場と捉える。

答弁にあたっては、「理想のあり方を求めつつ具体的課題に対さない」と、将来の発展方向はない」と考えている。

Q

国保税の引き下げと就学支援は

国に準じて健全運営を

A

●矢山 均等割の国保

税を18歳以下について3割減税など、自治体の一般会計からの繰り入れは一人当たり平均1万円となっている。収入が少ない世帯の税を引き下げるとともに、親の心配に応える特別支援学級は。

■町長 国の軽減制度



矢山 武議員

Q

災害復旧と国の補助金は

A

早期復旧に向け発注を

●矢山 多額の災害の復旧の見通しと、農家の農家負担はどうか。災害に伴う一般財源の必要額はどうか。



イノシシに踏み荒らされた水田

■町長 激甚災に指定され一般財源及び農家負担は減少すると考える。町道、河川は3分の2を国で町は3分の1を負担。国の負担のないものは町で対応する。早期復旧を目指し、9月に査定を受けて工事発注を行う。

■町長 米価が大幅に下がり、農業はますます厳しい。町としての対応を強めて米以外で所得を上げるべきである。イノシシの被害が増大しており、被害への対策は。

A

水田転作の定着とイノシシ対策は指導機関・農協と連携し支援

Q

米価が大幅に

■町長 法人化を推進している。「こだわり米」は消費者に評価され有利販売となる。アスパラ、キャベツ、ぶどうなどの支援をする。防護柵を集落ぐるみで進める。

地域完結型の医療を目指して

世羅中央病院院長 末廣 眞一さん

末広院長は、平成14年4月に赴任され、以来献身的に地域の医療を守ってこられました。以降業績も伸び、全国でも数少ない黒字経営の病院となっています。院長にお聞きしました。

Q 現在の、自治体病院の危機はどこから来ていると思いますか。

A 一つは、町村合併の広域化による弊害だと思います。県内に13の国保病院があり、行政と密着し地域医療と福祉を守っていた実績が、市町と合併しコスト主義で自治体から財政支援が途絶えたこと。

二つ目は、研修制度改革により、大学医局に医師が在籍せず派遣が困難になっていることが上げられます。

Q 全国の病院が医師不足に悩む中、世羅中央病院は、常勤医師12人増員されましたが。

A 自治体や議会の理解がある事が大きいと思います。そういう面は敏感に感じます。この病院に残る残らないは、お金ではないのです。個々が正當に評価されているかが重要です。患者さんの態度によっても左右されます。

Q 都会の病院では、夜間救急が、待ち時間が少なくて済み、軽症でも受診する、いわゆるコンビニ受診が問題になっていますが、どうですか。

A 世羅は、受診制限すると我慢してしまう傾向にあり、手遅れにならないよう早期受診



来年度155床に増床される完成予想図

を呼びかけています。

他にも、いろいろな検査をして病名にたどり着いたあと、いざ手術となった時、他の病院を紹介してくれとなると心底ガッカリしますが、反対に、患者さんから、感謝の言葉を掛けられると、苦勞も吹っ飛びます。有難いです。

Q 今後の病院はどのようにしたいと考えておられますか。

A この病院が田舎にあっても、質の高い医療を提供し、この病院で完結できるように、外科・内科の総合医で診察できる診療体制にしたいと思っています。優秀なスタッフと、市内と変わらない医療器械が整っている世羅中央病院は、それが出来る病院だと思います。また、病院ごとに、特徴ある診療科を持つことも必要と考えます。そのためには200床を越える病院にし、さらに機能を充実することだと考えます。

本日は、有難うございました。

福田 義人

表紙紹介



世羅中央病院チームも参戦

「どろんこバレー」

8月29日に旧黒川保育所前の田んぼで行われた、商工会青年部主催の第8回どろんこバレーのシーン。この大会も回を重ねるごとに盛会になり、県内外から約500人50組以上のエントリーがあり競った。

今町が描いている全町農村公園化構想には、こうした皆さんの活力が推進の原動力になると思う。

編集後記

7月14日の豪雨災害は多くの被害が発生した。それに係わる補正予算も決定した。

何かが変化しつつある事を感じるのには私だけであろうか。

気候、国際情勢、人間関係、めまぐるしく変化する今の時代に、この町も振り回されているようにも感じる。21年度決算も無事認定されたが、これが、

次年度にどのような反映されるのか、世の中が激しく変化する状況では疑問である。

私たち議員も激しく変化する状況を的確に捉え、冷静な判断力により一層前向きに進みたい。そして、町の動きが誰にでも判りやすいよう「議会だより」も工夫を重ねていくのでご意見、ご指導をお願いしたい。

(松本)

議会を傍聴してみませんか
次回の定例会は12月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

委員長／福田 義人
副委員長／松本 秀治
委員／西田美喜男・安佐 長秀
福田 豪・仙光 保喜

議会広報公聴
調査特別委員会

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。
年賀状など(答礼のための自筆によるものを除く)を出すことも禁止されています。